

出雲から世界へ情報発信

あす、第1回神在月 縁むすび世界大会

草柳大蔵氏ら招き分科会

二十一世紀に向けて出雲から世界へ新しい情報文化を発信しようと、世界・信頼・縁むすび、をテーマに「第一回神在月縁むすび世界大会」が二十三日、松江市西川津町にくらびぎメッセで開催される。

運営する「世界八百万委員会」は、縁むすびの地・出雲を「出会い、議論、チャンスとして創造」の場として、世界に情報発信することをねらいに、今年九月に発足した。千家尊祐委員長をはじめ、下村澄副委員長、小松昭夫副委員長など七人が中心となり、メンバー約七

十人で構成される。

同委員会の母体組織「世界八百万（やおよろず）の会」（千家尊祐会長、一団約七十人）の事務総長を務める山本謙さんは「多くの国際間の問題が残されているのは、人間同士の信頼関係がまだ築かれていないため。二十一世紀の世界に向かって何をすべきかという基本的な理念に基づき行動しなければならぬ」と話す。

同大会では、草柳大蔵氏や久司道夫氏らを招き、人と心、人と水、人と食、人と街をテーマに各分科会を

世界八百万の会・事務総長

山本謙さん

開く。それぞれの議論の中から新しい時代の構想について提言。「日本人は何をすべきか、目標に向かってどう行動すべきか」など共通の目標、方向を定めていこうというもの。世界中の人々との縁を結ぶため、出雲地域で毎年実施していく予定。

山本事務総長は「この大会を出雲の地でしかできないイベントとする」とも、この土地に活気とグローバル化をもたらし、ここに来れば何かを得られるという場になりたい。そして出雲という土地が心のふるさととなることを期待し、活動していきたい」と意欲を見せた。

出雲が心のふるさとに